２０２２(R４)年度　静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校　評価報告書

１．教育理念・教育目標

〈教育理念〉外国語教育とマナー教育をベースに、航空・観光・国際ビジネス業界などに必要な専門教育を施すとともに、様々な接客サービスに関する知識、技能と高いプロ意識を持った人材の育成を持って社会に貢献する。

〈教育目標〉「学歴」よりも「何ができるか」が求められる時代において、「わかる」だけでなく「できる」人材を育成するために、下記の３点を教育目標とする。

１．専門職種に直結した知識・技術の習得と資格取得を目指す

２．グローバル化された社会に対応すべく、聞いて理解でき、話せる実践語学力の習得を目指す

３．すべての仕事に通じるホスピタリティマインド（おもてなしの心）の育成を目指す

２．本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

募集・教務・就職・総務の各部門の連携を強化しながら、以下の各項目を重点的に取り組む。

・鷹匠キャンパス移転後の基本計画を策定し方針を決定、学園での承認を得る。

・令和５年度入学生募集定員１１０名以上を確保する。目標入学生数を１４０名確保する。

・新教育課程に合わせた授業内容の計画と実施を着実に行う。

・コロナ禍後を見据えた企業採用状況を見極め、学生への就職活動へつなげる。目標内定率 100%

３．評価項目の達成及び取組状況

評価方法：　４（適切）→　３（ほぼ適切）→　２（やや不適切）→　１（不適切）

（１）教育理念・目標

		評価欄
1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色が明確に示されているか	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
	自己　総合評価	３．８

成果と課題

(1-1)教育理念並びに教育目標は、「学校案内書」や「学生便覧」およびＨＰ上に記載し明確となっている。

(1-2)本校の教育の特色である、「専門教育（各コース）＋基本教育（英語・マナー教育など)」について、入学前での学校説明会、オープンキャンパス時に必ず説明を行っている。「学校案内書」「学生便覧」などに明示され、入学直後のウェルカムセミナーにて学生全員に説明し周知を図っている。

(1-3)内定先企業様や教育課程編成委員会でのご意見など伺いつつ、社会ニーズについて聞き取りを行っている。今後、航空業界、ホテル、観光系およびサービス業界がどのように変化していくのかを踏まえて将来構想については、考えていかなければならないと考えている。

(1-4)理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについては、入学前の接触時から「学校案内書」を使い説明し理解の促進を図っている。さらに、オープンキャンパス時に参加の父母等の方も参加当事者と共に学校説明、コース学習内容説明を聞いてもらい周知を図っている。入学後に配布される「学生便覧」に記載、入学直後のオリエンテーションにて学生全員に説明し周知を図っている。

(1-5)教育課程編成委員会を実施しており、教育内容についてのアドバイスや提案をいただいている。それらを検討しながらカリキュラムに反映している。また、教員をブラッシュアップ研修に受け入れていただいたりすることにより、現実に即した人材育成の方向性がより明確になることにより実現されている。

今後の改善方策

・社会のニーズは継続的に情報収集に努めなければならない。業界ごとにまとめていく必要があると考えられる。

学校関係者　評価コメント

・企業サイドの社会ニーズに協力したい。

・多様化するニーズに対する聞き取り、意見収集を行なうことは、教育課程やカリキュラムの改善に向けた重要な取組み。航空業界のみならず様々業界が変化していく中で将来構想を考える姿勢がますます求められる。

・社会のニーズの情報収集が在校生にも反映（共有）できるよう、継続的な情報収集をお願いしたい。

・充分検討され実行されており特に問題なし。

・入学前と入学後のギャップを埋めることが大事。もしくは良い意味でのギャップがあればなお良い。

・ニーズは刻々と変化しており、厳しい部分もある。時代が変わっても学校として大切なことは何かだと考える。（不易流行）

・一昨年度に続き、まだまだコロナの影響が長引くなか内定率100%達成は指導と尽力の賜物。
今後はAfterコロナの状況で社会の在り方やニーズが刻一刻と変化していくが、学生の傾向もおさえつつ、引き続き敏感に情報収集をしていく必要がある。

・毎年変わりゆく環境の中で適宜情報のキャッチアップを取ることは必須。引き続きマルチに活躍できる人財を育成いただけるよう学校目標、計画を策定いただきたい。

・教育理念や目標が明確で学生ならびに保護者にも伝わっていると見受けられる。今後も継続していただきたい。

・改善方策の実施をお願いしたい。

・どの業界も、いち早くトレンドを取り入れた商品を打ち出していくことが必要。学校側で業界ごとにまとめていくことができれば、学生にとっても良い資料になる。

学校関係者評価平均	３．８

（２）教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	4
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施･評価体制はあるか	4
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
	自己　総合評価	３．８

成果と課題

(2-1)シラバスは、各授業開始時に配布して科目の目標と授業方法、授業内容および教務規定に基づいた前期後期の成績付けの基準を説明している。

(2-2)オンラインで対応可能なもの、対面でしか実施できないものをコースごとに理解できており、週３日の登校、週２日のオンライン授業を計画的に実施できた。また教員の授業補助資料等の制作スキルも上がった。

(2-3)コースごとに人材育成目標を念頭に、必要な教科科目の科目間関連図を考えながらカリキュラムを構築、その内容を学生便覧で示している。

(2-4)各科、文科省の職業実践専門課程の運用に従い、年２回の教育課程編成委員会によりコース毎に関連業界団体と企業にご意見を頂きながら改定・推進を引き続き図っている。また、教員のブラッシュアップ研修を行い、最新の業界情報を取り入れている。

(2-5)職業教育として、コースごとに特徴的な研修や実習、インターンシップを取り入れている。

(2-6)授業評価は前期末と後期末に行っており、授業により小テストや成果物の提出物を評価することもある。

(2-7)学生に配布している学生便覧内の教務規定に定められており明示している。

(2-8)カリキュラムの一部として資格を取り込んでおり、年間スケジュールを作成、対策授業、実績管理などを行っている。

(2-9)学校の教育方針を理解している教員の確保を行っている。また、修学支援申請に対しての実務経験者が担当する科目が規定を満たし実施され認定おり、当内容を学校ＨＰにも公開している。ただし、学生の増加に伴い、効果的な授業を行うための人材が不足している部分もある。

(2-10)毎年、教員の担当コースに関わる企業にてブラッシュアップ研修や学内、法人による研修を行っている。しかし、個人のスキルをさらに向上させるためには、業務の見直しを行い、時間の確保も必要となる。

今後の改善方策：・教員の業務負担を減らし、授業準備時間の確保を行うこと必要。

・語学およびマナー教育を教育の基本とし、エアならではの教育（実習等も含む）を各コースで用意する。

・校舎移転に向け、新カリキュラムを意識した新たな授業内容等に挑戦することが必要。

学校関係者　評価コメント

・関係業界との連携を持ちながら教育課程の改善と推進を行っているのは大変良い。関連企業団体や企業から最新の意見を取り入れることで実践的な教育を提供でき、学生に実態に即した意識や知識を持たせることができる。

・学校での充実した毎日の報告を受けており、行き届いた指導を実感。

・シラバスを基準として、それに則り、教員、学生が方向性を同じに進んでいる。ブラッシュアップも積極的に取り組んでおり姿勢も評価できる。課題、問題なし。

・様々なコース、カリキュラムを用意されており幅が広い。体系的な学習環境を提供できている印象。

・教員の実践経験が大切。質を落とすことなく確保していただきたい。他の学校との良い意味での差である。

・効果的な授業と手厚いサポート体制のため、教員の人財確保は不可欠。現行のカリキュラムと新カリキュラムの違いについて興味があり、またの機会にご提示いただきたい。

・英語、接遇など１年生時に実施すること、２年生時に実施することなど、カリキュラムの時間配分などを工夫するとより資格取得などにつながるのではないかと思う。

・人材不足が作業の余裕を無くし教員のストレスに繋がる。教員の業務負担を感じていれば改善をお願いしたい。

・業界として新しい当たり前の理解定着が鍵と思う。以前はこうであったからではない新しい取り組みを期待。

・人材不足を補うために業務の見直し、効率の良い業務手順、ＤＸ化等で、教員の負担を減らすとともに、新カリキュラムでは学生が今まで以上に満足できる授業ができることが課題。

学校関係者評価平均　３．９

（3）教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	4
3-3	退学率の低減が図られているか	4
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
	自己　総合評価	３．８

成果と課題

(3-1)　観光業界が with コロナで徐々に動きが戻りつつある中、専門業界の採用も併せて戻ってきているため、専門業界への就職が昨年度と比べ大幅に改善された。内定率は目標の１００％を達成することができた。

(3-2)前年度と比較しマナー系の検定について合格率が下がったものはあるが、パソコン系や専門分野における検定は全体的に前年を上回っている。ホテルの検定では全国一位の学生を輩出することができた。

(3-3)退学率について国際エアライン科、観光・ホテルブライダル科、国際コミュニケーション科では2.3%、国際交流科は７.7%となり、全体として3.5%となった。

(3-4)卒業生の社会的な活躍評価は就職先企業様や卒業生の来校等などにより情報を得ている。また、在校生の学外での活躍を校長表彰として新たに設け学内表彰を行っている。（韓国語スピーチ大会やスポーツ大会での活躍等。）

今後の改善方策

・2023 年度の就職は早期化している求人公開に遅れを取らないよう、早めに幅広い業界研究から企業研究まで徹底し、臨機応変に対応できるよう就職への意識付けをおこなっていきたい。

・卒業生の活動状況の追跡について、卒業後は配布したメールアドレスが使用できなくなったため、新たな方法やツールを検討する必要がある。

学校関係者　評価コメント

・校長表彰は良い取り組み。学校のブランディングにも繋がり学生のモチベーションも上がると思う。

・卒業生の社会的な活動評価の情報収集、在校生の学外での活動の評価は、学生たちの多様な才能や能力が評価され、社会での活躍を促すよい取組み。卒業生の活動状況の追跡には SNS や専用アプリの活用など手軽さ、時代に合った受け皿をつくるのも一案。

・自ら進路を決める指導をいただいたと感謝。

・就職率、退学率（退学者数）、入学者数（応募数）は、経営の根幹にかかわる為、率だけではなく退学者数、応募数を抑えておきたい。応募数が多いということは高校や世間評価高いと認識でき、退学者数が何人いると経営負担（赤字）になるかの指標となる。校長表彰はとても素晴らしい取り組みでぜひ継続して頂きたい。

・学校外の活動は自主性の点で良い影響がある。海外の高校や大学はいかに学外の活動を充実させるか。

・退学率について個々の内容を調査しており問題はない。

・引き続きの内定率 100%達成、退学率の低減に加え、ホテル検定での全国一位の輩出は素晴らしい。また個人の学外での取り組みに対する評価制度も、学生のモチベーションにつながり、お互いの刺激にもなりとても良い取り組みだと思う。ぜひ学生さんへの周知を徹底し、表彰対象者が増えることを期待している。

・全体的な退学率は例年とあまり変化がないようだが、学科によって退学率が高い国際交流科など、どのようなケアがされているのか気になる。またコロナ禍の授業が対面・オンラインのハイブリットで実施されていたかと思うが、航空業界の内容は対面で学べる事が多いかと思うため、内容によって効果的にオンラインは活用していき、対面での授業を重要視していくことで学生一人一人の成長に効果的につながると思う。

・退学の理由は様々だと思うが 3.5%に満足する事なく取り組みを続けてほしい。

・メールアドレスも携帯電話、住所も変更する方が多いと思うので、全ての卒業生の活動状況追跡はとても大変。ある程度の期間を設けても良いのではないか。

学校関係者評価平均　３．９

（4）学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	3
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
4-5	保護者と適切に連携しているか	4
4-6	卒業生への支援体制はあるか	3
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
	自己　総合評価	３．７

成果と課題

(4-1)　キャリアの授業内で実施される社会人基礎力の育成から自己発見、自己表現の方法、実務面では書類の書き方などまで積極的に取り組んだ。また個別サポートを最優先事項として、担任が学生全員と個人面談を実施し、就職課と情報共有をおこない、個々の指導にあった進路指導を徹底した。

(4-2)担任制を導入しており、学生の変化に気付くことができる体制と、共通授業や廊下等でのあいさつの徹底や声掛けなどを通して担任に限らず他コース教員に対しても、いつでも相談できるような環境づくりを行っている。また、相談および学生情報については教職員間での情報共有を行い、内容によっては学校全体でサポートを行っている。新入生は、4 月～5 月に個別面談を行い、学校生活への適応状況の確認、サポートを行っている。ただし、コースによっては学生の増加に伴い教員の不足が発生しているためフォローが必要である。

(4-3)本校は授業料の減免が受けられる高等教育修学支援制度の認定校となっている。また、学園特待生の拡充と日本学生支援機構（奨学金）の窓口を設置し業務を行っている。奨学金については、予約生から入学後希望者の手続き、年次更新手続き、2 年次終了時の返還手続きの説明会など、2 年間を通してのサポートを行っている。ただし、奨学金利用者の増加に対し、担当者が不足しているため補強が必要となる。

(4-4)健康管理の担当教員を配置し、ポスター掲示や加湿器の設置案内など、随時、環境整備を行っている。また登校時には体温と手指消毒の確認、授業内でマインドフルネスやオンライン授業の際はホームルームで体操を行うなど、健康維持に努めている。また、スクールカウンセラーを設け、学生の要望に応じて無料で個人カウンセリングを実施している。

(4-5)保護者への連絡と相談の多くは、欠席が目立つ学生に対して行い、状況によっては来校いただき、直接話し合いの場を持っている。2022 年度は特にスピード感をもって保護者と連絡を取り、学生サポートを充実させた。

(4-6))卒業後の就職支援のための相談窓口をホームページに設置しているが、現状では、担任を通しての支援希望が多い。2022 年度は転職のサポートも行った。

(4-7)　高校・高等専修学校等に対して、ビジネスマナー講座やメイク講座、見学会の受け入れ等、依頼のあるものに対しては積極的に取り組んでいる。

今後の改善方策

・業務見直しを行い、学生対応のために必要な時間の確保、重要業務の負荷分担を行う。

・卒業生が気軽に学校とのコンタクトを取ることができる方法を検討する必要がある。

学校関係者　評価コメント

・弊社ではラジオ体操に取り組む事業所もあり有効。

・連絡が密であり、行き届いていると感じる。

・取り組み内容においては概ね問題、課題は無い。１点これから認知が必要な点は、卒業生の支援であると考えられる。告知方法、認知の深度、活発な活用につなげるための阻害要因は何か（心理面・ハード面）を再確認して今後取り組んでほしい。

・生徒のケアは大切。マインドフルネスとは具体的に何をされているのか。

・今後は「学生相談に関する体制は整備されているか」が重要。今の学生は優しい子が多くメンタル部分が大切。

・保護者との迅速な対応が退学率の低さに繋がっており素晴らしい。またマインドフルネスの内容についても興味がある。卒業後の就職支援窓口の周知方法は検討の余地があると思うと同時に、担任もサポート体制のデフォルトとしてもよいのではないかと思う。（元学生からは、先生の方が気軽に相談しやすいのではないか。）

・ケアが必要な学生などへのタイムリーな対応は継続すべき案件。また、卒業生へ向けた支援の機会やツールなど構築していくことでさらに魅力度が上がるのではないかと思う。

・学生を一人も取り残すことがないサポートを構築してほしい。卒業生へのツールも認知度にも課題を感じる。

・教員が少ない中で個別面談を行い、学校生活への適応状況の確認、サポートを行っているのであれば、かなり学生のサポートができていると思う。

学校関係者評価平均　３．８

（５）教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	2
5-5	防災に対する体制は整備されているか	3
	自己　総合評価	３．４

成果と課題

(5-1)学内分掌表にて、教室等や設備備品についても管理者を決め管理している。

(5-2)コロナ禍以前のように、自習室として開放をしている。ただし、安全上の理由から放課後については、職員室に近い教室利用を促している。

(5-3)オンライン、対面授業いずれに対しても必要な備品は揃えている。

(5-4)教室数および面積が十分ではなく、効果的な運営を行うためにはさらに教室数および面積が必要である。

(5-5)防災の日前後に防災訓練を行っており、学生の防災ヘルメットは準備できている。校舎入口には防犯用 web カメラを設置している。休日・夜間警備はセコムのシステムを導入、開校日は職員が放課後に当番制で学内の見回りを実施している。また、新入生に対して、オリエンテーションで避難経路および避難場所の確認を行っている。

今後の改善方策

・机や椅子など、古くなってきているものもあり教育設備の入れ替えが必要となってきている。

・物があふれ始めているため、整理整頓を行い不要な物の廃棄を行う。

・防災、防犯について教職員、学生への啓蒙が更に必要である。

学校関係者　評価コメント

・校内の事故災害、自然災害には十分対策をお願いしたい。

・新キャンパス移転後の拡張、拡充を期待したい。

・休憩スペースが少し手狭であると聞いており改善の余地がある。

・質の高い教育において面積、教室数は今後改善が期待できる。それ以外は課題、問題なし。

・教室数がより必要になっていることは良いこと。希望者の増加が起因しているため良い傾向。

・効果的な授業運営のため新校舎では十分なスペースと教室の確保を期待したい。防災は定期的な訓練が必要。

・対面授業参加時並びに、自習室の管理も実施されていることは安心した学生生活を過ごすために大切。
　また、防災に関する対策も準備はされているため、改善にも記載されている通り実践時の啓蒙が必要。

・防災訓練は全員が参加できているのか。就活等で参加できない学生へのフォローもお願いしたい。

・オンライン防災訓練の取り組み、休日、夜間警備についてセコムのシステム導入等々、適切な防災に対する
　体制が整備されている。安全面においても、整理整頓および不要なものの廃棄を行うべき。

学校関係者評価平均　３．６

（６）学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
	自己　総合評価	３．８

成果と課題

(6-1) 本校の学校案内書は、基本教育の内容をはじめ、カリキュラムの詳細や目標資格・職業、就職指導の方法等を明記するほか、別冊にて開学以来の就職内定実績先や卒業生の活躍などを明記し、詳細で情報量が多い。そして、毎年情報の見直しと更新を行うことで内容の充実を図っている。

(6-2) 学生募集要項では、入試の詳細な要項や出願書類の様式だけでなく、学科・コース別の時期別学納金を明記し、卒業までの必要経費が明確に掲載されている。そして、近年利用が増加している奨学金の種類や申し込み方法も掲載することで、入学検討者の不安を払拭し、安心して進学できるようきめ細やか情報掲載を心掛けている。

(6-3) 募集活動は、月１回のペースで独自の学校説明会や体験入学を行う他、業者主催の進路ガイダンスへの参加を通して、教育方針や授業内容、施設設備の見学、就職状況の公開など志願者が必要とされる情報を詳細に説明又は公開している。また、語学やマナーなど本校の特長である基本教育部分においてはミスマッチがないよう詳細に伝える努力をしている。

(6-4) 就職内定実績等、教育内容の指針となる教育実績をチラシやリーフレット、ＨＰ等で公開し外部に発信している。公開方法や更新のタイミング等においては、まだまだ改善の余地がある。

(6-5) 学納金は、私立学校として、日々の教育活動を維持するために必要な経費と将来の発展的学校運営への布石やイレギュラーの事態に対応できる程度の収益を確保することができるものとなっている。

今後の改善方策

・コロナ禍を経て、体験入学などのイベントの在り方も変化してきているが、対面での重要性を再認識し、今後の体験入学における運営内容を段階的に強化していく必要がある。ただし、常に予期せぬ事態に対応できるよう、オン

ライン等のツールも有効利用することで、安定した学生募集を維持する。
・入学までの接触頻度に関わらず、教育内容を十分に理解した上での入学を促進するために、必要な情報を安定して提供するとともに入学希望者個々の目的意識や適性、意思力を見極め、意識の高いレベルの学生募集に注力する。

学校関係者　評価コメント

・就職内定実績などの教育実績を外部に発信している点は好ましい。公開方法や更新のタミングについて改善の余地があるとのことだが、より効果的な発信方法や定期的な更新を検討し情報提供を強化していくことが重要。
・本人が希望していたカリキュラムであると思う。取組において特に問題、課題なし。
・入学希望者、志願者に対する情報が細かいことはとても良い。入学前と後のギャップを消すことが大事。
・外部への情報発信に関しては、幅広く目にとめてもらうことも効果的だと思う一方で、ターゲットを明確にする必要もあるかと思う。（私たち企業のアピールも、タイミングや対象の絞り方に苦慮している。）
・将来を見据えて学校選択をしている中での学生にとって、奨学金制度などは大変有効なもの。入学後の退学率を下げるためにもミスマッチを起こさないよう努めていることは評価できる。
・対面のイベントは、学生の入学後のイメージ向上に繋がる。今後も継続していただきたい。
・業界の動向を踏まえた募集と人財育成の観点を宜しくお願いしたい。
・十分適切な学生募集ができている。（個々の学習目的等見極め、意識の高い学生を募集できることは望ましい。）

学校関係者評価平均　３．９

（７）教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的に実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4
	自己　総合評価	4

成果と課題

(7-1)年度初めに、上司と面談のうえ業務目標を定め、年度途中に途中経過の面談を行っている。年度末に年間の実施到達について上司と面談を行い、業務遂行度を数値化することで評価している。

(7-2)職員間の情報共有は、毎朝の朝礼、日誌で口頭および文面で行われている。学生の状況についても欠席情報を日々共有している。職員会議時にも特筆する学生情報の共有を実施した。

(7-3)非常時の緊急連絡網は作成されており、感染症に感染時や災害時の会議、緊急時の学生・保護者・マスコミ対応の手順も文書化されている。

(7-4)災害・消防計画は整備されている。防災訓練はコロナ禍の中、クラスごと実施した。また、学生は学園グループ安否確認システムに登録しており、災害時の安否確認ができるようなシステムも稼働している。

(7-5)年度末までに次年度の理事長方針と部門長方針が発せられ、それに基づき所属長方針が決定。所属長方針をもとに各管理担当にて実施計画を作成している。

(7-6)中期計画を作成後、毎年度に計画を作成している。

(7-7)日々の朝の運営会議と教職員での朝礼により情報の共有を実施している。日々の行動の合意形成を行っている。また、毎月職員会議を実施し、短期スケジュールの確認や課題等への意見交換や合意形成を行っている。コロナ禍３年目としては、計画的な授業運営ができたと感じた。情報の開示については、スピード感を持って周知を行えたと思う。

(7-8) 人事・給与については人事規程が整備されており、人事評価は法人組織で一元化され、組織目標・個人啓発目標の設定を基に整備・運用されている。

(7-9)教務で必要なものは予算編成システム内で使用項目別に明確に管理されており、執行時には管理職の承認を必要とし、整備されている。

(7-10)学校ホームページ内に情報公開リンクを定め、シラバスや講義内容等、必要な情報を詳細に公開している。

(7-11)職員の殆どの定型業務はシステムに手作業を実行している。教職員全員にノートパソコンの利用についてセキュリティーについても強化され使用している。

(7-12) 基本金組入前当年度収支差額について令和３年度は１千万円を超える金額となった。令和４年度は施設の収容人数に限りがあり、総学生数は総定員 240 名に対して 288 名となり、２千万円程度のマイナスが見込まれる。施設については、鷹匠校舎の移転により定員増加をすることで収支の改善も図られる。

(7-13) 令和４年度の予算については、理事会承認後計画的に実施し、事業計画(短焦点プロジェクタ購入・就職用ガイドブック作成・遠隔授業用個室および物庫設置・鷹匠校舎設置用モックアップ購入・鷹匠校舎設計料等)について、すべて実施済みである。

(7-14)監事監査及び公認会計士監査が定期的に実施され、指摘事項もなく会計処理の適正について高い評価を受けている。

(7-15)学校法人ホームページにおいて財務情報について公開している。

(7-16)法令、専修学校設置基準等の遵守については、県からの学校基本調査等にて確認している。

(7-17)個人情報については、法人に個人情報に関する規定があり、これに則り学内に個人情報管理総括責任者や個人情報管理責任者を配置し、漏洩や不正使用の無いように非常勤講師含め周知している。

(7-18)自己評価のまとめを行うことにより問題点の把握に努め改善に努めている。

(7-19)自己評価結果については、関係者評価実施後に毎回学校ホームページにて公開している。

(7-20)ハラスメント委員会を学生及び職員に告知している。相談事項、具体的な問題の発生はない。

今後の改善方策

・コロナ禍において集合的な避難訓練ができていなかったが、次年度からは実施できるよう計画していく。
実施マニュアルについてもブラッシュアップしていくことが必要と考えている。

・ICT 化システム化が進む中、教職員のリテラシーの向上について学内講習会など実施しなければならない。
・引き続き令和５年度においても計画的に予算執行を行い、施設設備の環境を整えるとともに、退学者数の減少及び入学定員を確保することで安定した経営基盤を築いていく方針である。

学校関係者　評価コメント

・危機管理体制、災害、事故の際、情報を連絡する仕組みが重要。現場からのボトムアップが人命を早く救える。
・危機管理体制において取り分け安否確認について繰り返し訓練実施する重要性を当社の教訓から認識している。
・コロナ禍を経て、新しい生活様式に適切に合致した計画立案を望む。
・外部からみると預かった情報だけでは、収支基盤、予算・収支計画は見通しと計画が充分かどうかは不明瞭であり適正とは言えない。収支計算書を見る限り、特殊要因があるものの現時点では適正ではない。１年間ごとに退学者数が何人発生してしまうと経営のデッドラインなのかは抑えておきたい。（損益分岐点）7-1,2,7,8 等は具体的な内容と実行性を見ていないので 3 とした。
・非常に詳細を纏めている管理状況で安心する。危機管理については訓練あるのみ。
・安否確認は年に 2 回実施されているが、毎回周知を徹底しながら続けていく必要があると思う。（弊社は年 5 回実施。）また専任教員一人あたりの学生数は、昨今の若い世代の様子も変化しており、さらにきめ細かくフォローしていく必要があると思うので、メンター的な役割も担うことができるよう 20 名前後が良いかと考える。
・企業、学校共に防災意識は常に持ち続けるべきで、今後防災訓練含め新たに検討されるとのことで早急に対応していくことが必須。また、予算関連に関しても移転など施設の問題で改善されること、また学生数を安定的に確保できることを期待。
・ハラスメント関連では、学生だけでなく教員も守れる体制をお願いしたい。
・計画的な予算執行で施設設備の環境を整えて、ぜひ新カリキュラム等の学びの場を充実させてほしい。

学校関係者評価平均　４．０

（８）社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	4
	自己　総合評価	３．７

成果と課題

(8-1)社会貢献、地域貢献について、一部コース学生による朝の学校周辺の清掃活動や、ボランティア担当教員を中心に、ボランティア活動に対して積極的に参加を募っている。しかしながら、教育資源や施設を利用した貢献活動については実施ができていない。
(8-2)留学生受け入れについては、原則、日本語学校の卒業生を受け入れ、留学生担当教員による在留資格更新の手続き等を法令厳守のもと適切に実施している。
(8-3)留学生クラスも担任制をとり、学生に対する個別指導を行っている。出欠席や生活リズムの把握を行っており、欠席が続いた場合などにはアパートへ出向いて状況を確認することもある。また、オーバーワークの管理も実施している。

今後の改善方策

・在留資格取次者資格について、留学生担当者全員の取得が望ましいと考えている。取得への手続きについて迅速に対応していくことが必要である。

学校関係者　評価コメント

・留学生は学習、生活でいっぱいの生活だと思う。法令順守の在留資格の保有、更新のサポートをお願いしたい。
・学生が学んだ知識、スキルや施設を地域の課題解決に活かすためのプロジェクトやイベント開催なども貢献活動の切り口になると思います。
・個別指導について、学校全体での実態把握と適切な対応をお願いしたい。
・取組んでいること、学校全体として考えている姿勢、方向性があるだけでも十分な貢献である。
・学校周辺の清掃活動等は動機づけが必要。まずは参加をしてやりがい、きっかけが必要。やらされているものにならないように。
・留学生は日本で学ぶ理由が違っており、より個別の対応指導が必要。特に地方の学校では、就職のアドバイス等より専門性が必要となる。日本に居場所を多く作ってほしい。
・留学生へのケアが手厚く素晴らしい。また地域貢献の一環として、教育資源や施設を利用した活動はぜひ積極的に行ってほしい。結果、志願者増加にも繋がるのではないかと思う。
・留学生の受け入れ管理は大変難しい課題だが、適切に手続き管理するため担当制をとっていることは全員に対して差異なく対応できるため継続すべき。また、勉学だけでなくオーバーワーク管理も実施されており一人一人のケアができている。
・ボランティア活動は企業とコラボした内容はどうか。
・地域貢献は学校のイメージアップには必要。ボランティアだけでなく学校全体での取り組みを希望。
・留学生の受入れについては法的なことも含め様々な手続き等あるが、適切な対応で多くの留学生を受入、貴校で優秀な人材を企業へ送り出してほしい。

学校関係者評価平均　３．７